

協働のまちづくり推進計画検討委員会（第9回）会議録

| | |
|------|---|
| 日 時 | 平成22年12月16日（木）14：00～16：45 |
| 場 所 | 富里市役所本庁舎3階第3会議室 |
| 出席委員 | 久野直衛委員長，長徳實義副委員長，石井壽恵子委員， 加藤千春委員，小泉喜市郎委員，竹生勳委員，長谷正行委員， 二上正栄委員，荒野峰之委員，斉藤榮子委員，鈴木勉委員， 高澤忠彦委員，新井正美委員，榊原孝委員，長谷川敏彦委員， 堀越等委員，片貝勝也委員 （欠席3名：大木寿美子委員，小林隆夫委員，森秀樹委員） |
| 事務局 | 総務部企画課長，企画課企画調整室長， 企画課企画調整室員（2名） |
| 傍聴者 | 2名 |

〔会議次第〕

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議題
 - （1）（仮称）協働のまちづくり推進計画について
 - （2）地域フォーラム（市民等との意見交換会）について
- 4 その他
- 5 閉会

〔 会議概要 〕

| 開 会 | |
|-----|---|
| 委員長 | 会議録確認委員の選出（堀越委員，片貝委員） |
| | （１）（仮称）協働のまちづくり推進計画について |
| 事務局 | 【担い手づくり】 前回資料１（P．１０～１７），前回参考資料１（P．１２～１７）により説明 |
| 委員長 | B班で補足や修正する部分はあるか。 |
| 委員 | 「協働人材バンクの作成」は，「作成」でなく「創設」のほうがいいのではないか。 |
| 事務局 | 検討させていただく。 |
| 委員 | 「市民活動表彰制度の創設」は，現表彰制度と関係なく実施するのであれば別だが，現行の表彰規則を変更するにはどのような手続きが必要なのか。 |
| 事務局 | 規則は，変更案を作り，法令関係の担当課との協議後，告示をする。 |
| 委員 | 議会の議決を要する案件なのか。 |
| 事務局 | 条例ではないので，議会の手続きはない。例規審査会で，審査することになる。 |
| 委員長 | 現行制度の意義から見直す必要があるのではないかという |

| | |
|-----|--|
| | <p>ことだと思う。評価を行う主体や方法をどうなるのか、現行の制度を見直すだけでよいのかという内容だと思う。</p> |
| 委員 | <p>既存の規則があるので、改定で済むのであれば、創設までしなくてもいいのではないか。</p> |
| 委員長 | <p>事業名を「表彰制度の見直し・修正」と言う文言でよろしいか。</p> |
| 事務局 | <p>既存規則で、対象を見直しすれば済むのか、別に制度が必要なのは、検討が必要だと思う。「創設」は新しく作るというイメージがあるので、検討し、次回適切な言葉で提案させていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>「創設」、「一部修正・見直し」の判断基準だが、現行の規則の目的・対象を大幅に変えるのであれば、創設となる。部分修正になれば、「整備・充実」となる。どの程度市で検討するかによって変わってくるのではないか。</p> |
| 委員長 | <p>既存の規則と現状をみて見直しするということで進めていきたい。</p> |
| 委員 | <p>「サポートセンターの創設」、「協働のまちづくりの講座」は、検討期間がなぜ3年も必要なのか。「リーダー育成講習会」も27年度に実施にあり、「時間預託制度」は、26年度に「研究」とあり「実施」と書かれていない。</p> |
| 事務局 | <p>年次計画については、意見があると思う。参考資料2を作成したが、内容が終わった段階で、すべてを見渡し、整合性もとりながら議論していただきたい。</p> |
| 委員 | <p>「リーダー育成講習会」は、もっと早く実施していただきたい</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>い。「市民活動ブース」ももっと早くできないか。いろいろなものを整えてからリーダー養成では稼働が遅れる。全体的にスピーディーにお願いしたい。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>優先となる計画がどれなのか，一緒に進められるものはどれなのかを全体的に見て，どのような戦略で進めるかは，次のステップで検討していきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>「市民活動表彰制度の創設」だが，文書化するとどうしても硬い文言になってしまう。市民の中には意外と知られていないが，活発に活動している人たちがたくさんいる。そういう人たちを褒めたたえたり，人と人とのつながりで温かみのある表彰の仕方，制度を委員会で作るほうが協働らしいと思う。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>「時間預託制度」について教えていただきたい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>「ボランティア」は，無償で行うものと有償ボランティアがある。無償でボランティアを行った場合，自分が実施した時間や活動の内容については，ポイントなどにし，その制度に貯金しておく。もし，自分がサービスを受ける側になったときにそのポイントで使うことができる制度である。</p> |
| <p>委員</p> | <p>福祉分野でお互い助け合おうというところから始まった。ボランティアをして，自分がボランティアにお願いしたいことができた場合，そのポイントを使って，やっていただくことができる制度である。</p> |
| <p>委員</p> | <p>県内全体でポイントを使えるようにしたい。富里市は，何もしていないので，勉強しながら作りたいと思い提案した。そうすれば，ボランティアさんが増えるのではないか。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>活動分野や対象，組織主体など考えなくてはいけないことが</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>たくさんある。枠組みや制度も含めて作らなければいけない。事業名も含め、文言に工夫が必要ではないか。</p> <p>「市民活動保険の導入」について、市の仕事の一部を頼んだ場合、非常勤公務員として任命するときもある。公務災害補償との関係は、どうなっているのか。発令行為がなかった場合とどう住み分けするのか。</p> |
| 事務局 | <p>現行の保険は、市が依頼したものしか対象にならない。保険会社では、いろいろな商品を発売している。例えば届出等をしなくても保険が適用されるものもあるようなので、研究しなくてはいけない。手間がかからなく、広くカバーされるものを探していく。</p> |
| 委員長 | <p>どこの範囲まで認めるかガイドラインを作らなくてはいけないと思う。</p> |
| 事務局 | <p>【情報の提供共有】</p> <p>前回資料1(P.18~25)、前回参考資料1(P.18~25)、資料1-1(P.1)により説明</p> |
| 委員長 | <p>情報の提供と共有は、協働推進で要だと考えている。環境づくり、担い手づくり、市政への参画を推進していくうえで、情報は、フォロー、サポートしていく意味で重要なセクションだと思う。「人材バンクの創設」は、担い手づくりでは、「創設」となったが、この部分では「作成」でよいと考える。情報の発信と受信の機能の両方をどう作っていくのかということで、データベースづくり等の調査を早急に進めないと次の推進の戦略が作り出せない。ホームページの開設も情報の共有・提供に関わるので、運営の組織の創設が急がれるのではないかと思う。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>「協働専用ホームページの開設」は、いいものが作ればと思う。「市広報紙及びホームページの充実」で、専用ホームページへリンクを貼ると同時にそれ以外にもJAや商工会など、あらゆるホームページのトップページに掲載できればいいと思う。市の認定のバナーを作り、いろいろなところに掲載すると細かいところまで広がると思う。</p> |
| 委員長 | <p>双方向で情報を共有できるようにしたい。リンクも大事だが、手軽に作れるブログの技術もかなり進んでいる。ネット上での情報の交換や交流ができるような仕組みができていますので、そういうことも含め、いいものを作りたいと思う。</p> |
| 委員 | <p>ホームページは、インターネットがある人ならいいが、ない人は情報を集めるのにどこに行ったらいいのか。</p> |
| 委員長 | <p>情報の提供と共有は、活字ベース、音声、ホームページだけでなく、フェイス・トゥー・フェイスの交流だと思う。協働のまちづくりのキーワードは、つなぐという言葉で、そういうつながりを再構築できないかというのが原点だと思う。そのために環境づくりや担い手づくりの中に人と人が出会える場所や仕掛けを作ることが盛り込まれている。人と人とが出会えるツールの一つとして使っていきたい。</p> |
| 委員 | <p>コンピューターで得るだけが情報ではない。コンピューターは、手段であって目的ではない。情報をどう活用するのか、共有するのか、お互いどのようにキャッチボールするのか。実施時期が早いので、システムづくりと運用管理をつめないといけない。</p> |
| 委員長 | <p>パソコンは、若い世代にはいいが、高齢者にはなかなか難しいという議論がある。システム等が改良され、高齢者の健康管理やコミュニケーションツールとして脚光を浴びている。旧来</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>型のネットのコミュニケーションだけでなく、いろいろなツールがあるので、今後いろいろな形で高齢者とネット端末は、切れないものになると思う。</p> |
| 事務局 | <p>【市政への参画】及び 【市の推進体制】 前回資料1（P. 26～31）、前回参考資料1（P. 26～39）、資料1-1（P. 2）、参考資料1-1（P. 9～16）により説明</p> |
| 委員 | <p>パブリックコメントの43件は、どういう内容だったのか。</p> |
| 事務局 | <p>次世代行動計画と協働のまちづくり条例の関係である。</p> |
| 委員長 | <p>パブリックコメントは、行政から市民に対するものだが、今回は、検討委員会が主体でパブリックコメントをする。</p> |
| 委員長 | <p>条例を作成するときには条例を実のあるものにしていくのに重要なのは、市民参画の部分が重要で、その手立てとしてパブリックコメントがあがったことに懸念を表明した記憶がある。近隣の市町では、アライバイづくりと言っていた。そう扱われているものを重要なツールとして位置づけにすることに懸念を感じた。本来のやり方に沿った形で実施すると市民参画の実現に有効になる。これについての修正など去年より進んでいるのも事実だし、パブリックコメントやインボルブメントは、重要な趣旨が隠されているので、じっくり検討していただきたい。</p> |
| 委員 | <p>パブリックコメントを提出したことがある。43は、人数ではなく、件数ではないか。パブリックコメントは制度を利用する人が少ないのは関心がないというより、制度がよくわからないのではないか。実際にアライバイづくりに終わったというように思うが、提出したことにより修正された計画がある。着実に少しずつ変化しつつあるが、もう少し大事なところが修正され</p> |

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>てほしかったという思いは残る。パブリックコメントは有効なものだし，市民も反応したらいいのになと思う。</p> <p>アリバイの件は感じないわけではない。全般的に難しい文言が多く，理解しにくいし，堅苦しいものを理解していこうという意欲が沸かない。易しくすればいいというものではないが，解説の部分でわかりやすくするなどの方法はないものか。</p> |
| 委員長 | <p>なじみが薄い条例や話題は，どう反応していいのかわからない。推進していく計画をいろいろなツールを使って普段から市民の横のコミュニケーションや行政に対する興味を醸成していけば，既存の仕組みや制度が十分に生きていく可能性がある。協働推進における市政への参画については，意識を持って取り組んでいきたい。</p> |
| 委員 | <p>パブリックコメントは，官で作ったものを市民にどうかと示すもので，今回初めて市民が作り出したものを市民に問う重要なきっかけだと思う。市民が集まって考え出したものを市民の反応を得るには，地域フォーラムが大事だと思う。まだ広報活動が進んでいないが，市民が協働のまちづくり条例を理解し，一緒に動き始めるスタート部分になると思う。</p> |
| 委員 | <p>パブリックコメントは，国が法律等を改正するときにホームページなどで公表しているが，そのときには，委員会や審議会ではほぼ決まっている。もしそれに取り組んでみてもそれに対してどうなったのかというフィールドバックがない。</p> |
| 委員長 | <p>「市政への参画機会(パブリックインボルブメント)の推進」は，初期の段階から市民が広く参画することで，途中の段階においても周知できる。話題になっていけば，最終的な提案があったときに今までと違う反響があると思う。そういう意味でのツールは，既存のツールだが，運用の仕方を行政と協力して</p> |

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>変えていくことにより，結果が変わってくると思う。</p> <p>パブリックコメントの内訳だが，協働のまちづくり条例で，4名から18件，新しい行政改革プランで，1名から11件，次世代育成計画で1名から14件で，人数は少ない。市はただいたものに，必ず回答を作成し，ホームページや担当課で開示し，フィードバックできるような運用をしている。3件については，いただいた意見により修正がかかっている。</p> |
| 委員 | <p>「市政への参画機会(パブリックインボルブメント)の推進」で，「パブリックインボルブメント」という言葉は必要か。</p> |
| 委員 | <p>ボランティア活動をする方は，高齢者が多い。英語を作ってもいいが，解説をつけるなどの運用の仕方をしたほうがよい。「パブリックコメント」や「パブリックインボルブメント」は，使わないわけにはいかない用語になっているように感じる。</p> |
| 事務局 | <p>改めて検討させていただく。</p> |
| 委員 | <p>市職員の協働意識の向上は，期待している。今回，行政側から職員が参加しているので，それぞれの部署で研修していただき，窓口を明るくしていただきたい。窓口が明るくなれば，協働のまちづくりが進むと思う。</p> |
| 委員 | <p>職員の意識が足りないとのことで研修が提案されている。市と市民と一緒に協働のまちづくりを推進していこうという狙いがあるから，市職員がどう協働のまちづくりに対して認識を持っているのかが重要である。協働のまちづくり推進課に希望する職員を募ったり，地域の方と顔なじみになって一緒にやっていくとなると5年はかかる。市の体制づくりを考えていただきたい。</p> |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <p>パブリックコメントの件数が少ないとあったが ,ホームページを使うから少ないのではないか。リーフレットなど大々的にやらないと意見が出てこないのではないかと思う。ホームページを充実しても伸びないのではないか。</p> |
| 委員長 | <p>パブリックコメントを実施するときは ,市の広報やホームページに明記される。一般に目に付くのは広報だが ,難しい文言でスルーしてしまう。詳しく説明しようとする文字や絵がいっぱいで誰も読まない。パブリックコメントがあったときに市民の反応を一番呼び込めるのは ,普段からその問題を近所や職場で話題にあがるような環境が作れるかどうか重要だと思う。初期の段階から情報を共有し ,醸成する状況を作るのも協働のまちづくりを推進するのに重要で ,その仕組みを地道に作っていくことができるかが重要だと思う。</p> |
| 委員 | <p>市民のニーズと結びついていないと市民の関心は生まれない。その部分を考えていかなければいけないと思う。市にも推進課をつくり ,市民側にもセンターができれば ,それがチャンスになると期待している。</p> <p style="text-align: center;">休憩 (16 : 00 ~ 16 : 10)</p> |
| 事務局 | <p>・ 年次計画について 参考資料 2 について説明</p> <p>(2) 地域フォーラム (市民等との意見交換会) について</p> |
| 事務局 | <p>資料 2 , 参考資料 3 により説明</p> <p>当日の体制 , 出欠確認 役割分担</p> <p>進行 : 1 月 25 日 二上委員</p> |

1月29日 加藤委員

パネリスト：1月25日 高澤委員

1月29日 長徳委員

議事録作成：1月25日 長谷委員・荒野委員

1月29日 鈴木委員・竹生委員

閉 会